

## 竹島周辺の海水が ポテトチップの塩に？

「ガンツ・グート！」とはドイツ語であり、標準日本語にすると「ごっつええでんな」の意味になり、ドイツ人は物事を誇張して言う場合、「**ガンツ**」を多用するようだ。

長沼、北見・常呂、十勝・音更2名の4人で昨年11月にドイツ・ハノーバーでの農機具の祭典「アグリ・テクニカ」に行ってきた。今回は何度か利用した韓国インチャンを経由した。世界中の有名ブランドが旅行者を魅了するきらびやかなターミナルだが、その裏にはしつかりとした、したたかさが潜んでいた。

ターミナル内を歩いていると、子供がおいしそうにポテトチップを食べていたので、つい私も衝動買いをしてしまった。食べ終わって、ポテトチップが入っていた袋を何気に見ると、海に浮かぶ小さな岩らしきものがあつた。「まさか？」と思い、後からネットで調べてみると、「ウルルン島の深水650mからの海水（を使った塩）」とある。だが画像検索すると、やはり**あの竹島・男島**、韓国で言うところの**独島・東島**の様であり、ウルルン島の画像とは明らかに違うと感じた。もっと驚いたのは、このポテトチップを販売しているのは韓国へのヘテという会社で、カルビーと提携しているのだ。提携関係になる前から販売しているが、味に遜色はない。そうなるこの韓国の会社がしたたかなのか、それとも海外進出を目指すカルビーがしたたかなのか。まあ韓国の消費者とそれを知らない海外旅行者が決めるのだろう。カルビーさん、北海道の生産者のために今度はロシアの会社と提携し、「返せ北方領土、オホーツクの味！」

つていうのをやりましょう。……などと170度のシートで夢を見ていて、目が覚めるとドイツ・フランクフルト飛行場に着いた。予約してあったホテルまではタクシーを利用したが、私と同じくらいの年齢の運転手は融通が利かず、典型的なザウアー野郎（使ってはいけないドイツ人の別称）だった。ホテルまでは1・5kmとネットに書いてあったので、そのことを運転手に伝えると「それは間違いだ、工事中の道路を迂回するから2kmぐらいになる」と少しケンカ腰が始まった。私にも

## チン道中と笑うのは どこのドイツだ!

Vol.46



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

う少しリラックスしていただこうと、「彼女はいるのか？」と聞いたら「オレは結婚して子供もいる、変なことを聞くな！」だって。海外のタクシーに乗るときは、私は積極的に運転手に声をかけるようにしている。その方が神秘の東洋から来た日本人相手に、緊張しないで済むからと考えているからだ。ドイツの場合、70%くらいはドイツ人以外の運転手なので、ドイツ人

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

の悪口で盛り上がるが、ガンツ・ドイツ人の場合は対応に苦慮することもある。

翌日はハーツレンタカーからいつもの9人乗りのSUVを借りた。4人しかいないが、後からオランダ人の旧友ヤンが乗り込むことになっていくし、各自のスーツケースを搭載するので、スペースが限られてくることを考慮すると、多少は大きめの車を借りることになる。今回からオートマ車の選択ができるようになった。今までは5段もしくは6段ミッションを、速度に合わせてクラッチを踏むのはガンツ・面倒くさいので運転はしないで、助手席に座り、あっちだ、こっちだとナビゲーション役をする方が多かった。前々回(4年)前からオプションで後付けカーナビが借りられるようになると、負担は劇的に緩和され、ありがたいことに、今回からはベント純正で組み込まれたカーナビが活躍することになった。

ではあるが、このベント純正カーナビがガンツ・曲者だったのです。純正と言っても中身はなんと日本のパイオニアAVIC-F30BTとガンツ・ご立派な名前をお持ちで、ヨーロッパの多様な言語が搭載されているのはさすがなのだが、その設定を変えするのに一苦労した。書類の手続きを

済ませエンジンをかけたまま、言語の設定をドイツ語から英語に変更するのを見ていた、ハーツレンタカーの係員が近づいてきた。4年ぶりに今回のツアーに参加して、運転をすることになった北見・常呂町のOさんが「助けに来たぞ」と言ったが、私は「多分違いますよ」と話した。窓を開けると、女性係員は「大気汚染になるので、エンジンを止めてください」と宣った。来てくれたついでに、ドイツ語表示のカーナビを英語にしてもらった。ただ、音声も直さなかったために、後から手痛い事態が待っていました……。

### 4年前の経験に学んだはず、ただだけ

とりあえず、出発して速度制限がないアウトバーンを一路ハノーバーまで4時間のドライブをOさんに託すことになった。このアウトバーンはすごいですね。一番左端の追い越し車線を時速170kmで走っていても、注意していないと後方の車からヘッドライトのパッシングをされる。追い越した車は我々よりも明らかに50kmくらいは速く走っているの220kmということになる。

車中「4年前、オービスにやられましたよね」とOさんと話をしていたら、道路の端からバシヤ!と

赤白いフラッシュが……。 「えー、またかよー」と、驚きを隠しきれないOさんは「玉を潰されたような声」を發した。そういえば、オービスが光る10秒くらい前から、周りの車が速度を落とし始めていた。速度標識には制限120kmと書かれてあり、後から届いたハーツの請求には39・75ユーロ(約4062円)の請求書が記載されていた。

気づかなかったもう一つの理由は、カーナビの音声は英語にしなければ、速度注意の標識の少し前からドイツ語で「ガンツ・アハーン・ビッテ♡」と言っていたが、何のことかわからず無視したためだ。

そしてこのベント純正カーナビには終始泣かされることになった。画面は常時、北の方向を示し、進行方向を上にするにはできません、ある街中では右折禁止を右折しろ、自転車専用道路を走れ、目の間に宿泊するホテルがあるのに2プロックくらいぐるっと回れ……などなど、パイオニアさんは何をやっているのですか? と聞きたいくらいだった。ドイツ人の国民性を考えるとハードの問題ではなく、ソフトの問題の様に感じた。地図のゼンリンさん、ドイツ進出のチャンスができましたよ! ちょっと話は変わるが、最近の旅客機のコクピットは以前の丸い計器

だけから、グラス・コクピットと呼ばれる一つの画面にいくつも情報が映し出されて、以前の丸い計器を目で追う必要がなく、パイロットが操縦に集中できるようになっている。

ヨーロッパ製で有名なエアバス機の画面は一時期、地図と組み合わせ、自分の位置をこの画面上の一番下(手前)に表示してあった。確かに旅客機は好き勝手に飛ばないで、前にしか進まないし、決められたルート飛ばすのだから、エアバスは飛行機の前方情報しか表示しない。最良の方法と考えたのだろう。

しかし悪天候の場合、行なうことがあるミスド・アプローチ(着陸のやり直し)では、一度飛行機の進行方向が180度変わるために、画面上に航跡や飛行場が映らないことがあり、それが原因で事故が発生した(起きた、ではない)こともある。

米国のボーイング機の場合は画面の下から上に向かって3分の1のところに自機が表示されるので、航跡が確認しやすいシステムになっている。まっ、いつもこんなことを考えて乗客として旅客機に乗っているわけではないが、人生の今までの、そしてこれからの、立ち位置としてはあらためて考えさせられることもあるところで農機具展の話は? 来月号あたりでガンツ・お楽しみに。